



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」
「美しい森林づくり推進国民運動」

テレビ金沢の美しい森林づくり

株式会社テレビ金沢では、
平成一七年度から「ふるさとの森 再び」キャンペーンを展開しています。
このキャンペーンでは、石川県民や企業、行政と連携する中で、
森の恵みを活かせる石川らしい森づくりを目指し、
様々な活動に取り組んでいます。



「テレビ金沢の『ふるさとの森 再び』キャンペーンは、『おい、森へ行こう』と呼びかけてスタートしました。石川県土の約七割を占

める森を次世代に引きつぐためには、森と私たちのかかわりをもっともっと知らなければなりません。まず、森へ行き、森に親しむことが大切で

すので、この呼びかけになりました。現在、キャンペーン活動は、『ぬくもりの木道づくり』『空中とり木法・アテの森づくり』『こどもの森づくり』『森のふれあい音楽会』など様々な取組を通じて実施されています」と話すのは、このキャンペーンの担当者で、株式会社テレビ金沢営業局事業部長の中田稔也さんです。

●ぬくもりの木道づくり (金沢・医王の里)

キャンペーン活動の中心テーマとして掲げられている「森へ行き、森に親しむ」を実現するためには「車の利用者やお年寄りも気軽に森に入り、散策できるようにしたい」



テレビ金沢の中田稔也営業局事業部長

と考え、そこからスタートしたのが「ぬくもりの木道づくり」でした。金沢市近郊の市営キャンプ場の森の中にはバンガローを縫うようにして木道がつけられています。この木道は参加者がボード一枚につき五百円を負担した後、各自が思い思いにボード上にメッセージを書き添え設置したものです。木道は緩傾斜地につけられており、高いところでは三〜四メートルの支柱上にあります。高いところにある木道から見下ろす景色は壮大です。

平成一七年度からスタートした『ぬくもりの木道づくり』では、全長二七〇メートルの「木もれ日の道」が完成し、引き続き平成二〇年度からは第二期の木道づくりとして全長二四〇メートルの「ササユリの道」づくりが進んでいます。

現地も案内していただいた中田部長は「ボードにはそれぞれの方が思い思いのメッセージを描いており、



楽しい内容が盛りだくさんです。何か参加されている方は前回設置した自分のボードを探し、発見すると非常に楽しそうな表情を見せてくださいます。前回の成果を見ながら「今回は絵が消えないようにするにはどうしたらいいか」といったような工夫もされているようです」また、「最近では電動車いすなどが利用され始めたことから、木道の真ん中に木の幹が出ているところなどでは、木道の幅を見直さなければなりません。でも子供たちのにぎやかな笑顔や車いすの方々の明るい笑顔をみると、森に親しむ機会づくりは今後とも力を入れていかなければならないと、キャンペーンの継続に向けた決意を新たにしています」とその意気込みを語っています。

●空中とり木法アテの森づくり

(輪島市)

輪島塗の木地として使われ、石川県の県木でもあるアテ(能登ヒバ)。このアテの森を育てる体験学習がアテの森づくりです。

アテの森づくりとは、木の枝の表皮をはぎ取り、水ゴケを巻きつけて発根を促す「空中とり木法」で育てたアテの苗木づくりと、その苗木を植樹する活動です。都北辰、輪島、輪島実業、航空石川の高校生と一般募集による参加者により実施されています。中田事業部長は「平成二〇年度から始めた取組も今年で二年目となり、高校生たちにも植樹の意義や森を大切に作る気持ちが根付いてきました。当初はアテが県の木であることを知らなかった生徒も多く見られました。最近では輪島塗などの地元伝統工芸にまで生徒の関心が



広まるなど、予想以上の効果があらわれています」と、その効果に着目しています。

●子どもの森づくり

(金沢・角間の里)



金沢大学の角間キャンパス内の里山を利用した「子どもの森づくり」は平成一九年度から始まりまし

た。テレビなどで募集した子供たちを対象に、今年には「森のプロの技を見よう」と題して森林組合による間伐や枝打ちの作業を見学し、また、「みんなもできる雑木林のササ刈り」を参加者で行いました。午後には「里山おもしろゼミナール」や「里山体験工房」と題した竹細工、間伐材を使ったバードコールなどを作って楽しみました。

当日の様子は、昼と深夜のニュース番組内でも紹介されました。自分の活動がテレビで放映されることで、参加者の関心も一段と高まりをみせており、地域密着型のテレビ局による活動は森づくりへの機運の醸成にも大きな力を発揮しています。

●森のふれあい音楽会

(白山市獅子吼高原)

白山市を会場に毎年開催されているのが「森のふれあい音楽会」です。昨年までは白山瀬女高原スキー場を会場に「ブナの森 音楽会」として開催されていましたが、今年は会場を白山市獅子吼高原に移し、題名も「森のふれあい音楽会」と改称して開催しました。

事前にテレビなどで開催の予定が放送されることから、毎年若者を主体に多くの参加者でにぎわいます。普段、森林に対する関心の薄い人達にもこの機会を利用して森に興味を抱いてもらえるよう「美しい調べにさわられて木立の間を歩きませんか」と呼びかけ、トレッキングや植樹活動、親子木工教室等を併催しています。本年は巨樹の会のメンバーで樹木医の千木容さんが「森林(もり)のはたらき」と題した講演を行いました。「おーい、森へ行こう」という呼びかけからスタートした『ふるさとの森 再び』と題したキャンペーンは、このように各地で活動の輪を拡げられて、森に親しみ、森を守り、そして森を育てていく、石川県民の意識づくりに貢献しています。